

～2006夏期合宿 市田ゼミ～

## 『Heckscher-Ohlin Model』

### (Chapter7:ヘクシャー=オーリン・モデル)

① ヘクシャー=オーリン理論とは？

#### 各国の資源の差によって国際貿易が生じるという考え方

② 2要素経済のモデル

<ヘクシャー=オーリン・モデルの特徴>

1. 各経済は2財を生産
2. それぞれの財の生産には2つの生産要素が必要
3. 同じ2つの生産要素が両部門で用いられる

<仮定>

例えば、食料と衣料の生産について・・・

1. 生産技術が固定係数によって表される。
2. 資源は労働と土地
3. 衣料生産は労働集約的、食料生産は土地集約的

$a_{TC}$ : 衣料1ヤールあたりに必要とされる土地投入のエーカー数

$a_{LC}$ : 衣料1ヤールあたりに必要とされる労働投入の時間数

$a_{TF}$ : 食料1カロリーあたりに必要とされる土地投入のエーカー数

$a_{LF}$ : 食料1カロリーあたりに必要とされる労働投入の時間数

L: 経済全体の労働供給量

T: 経済全体の土地供給量

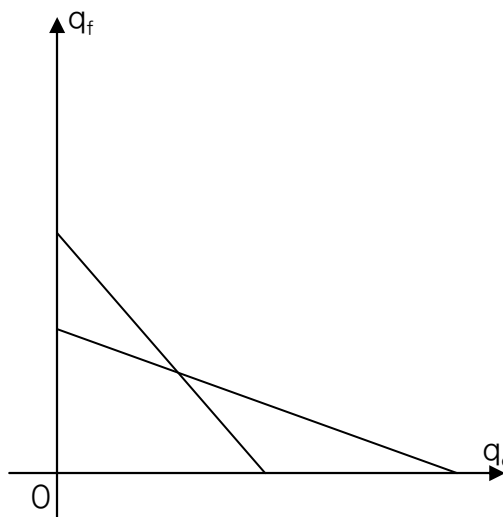
仮定3より、\_\_\_\_\_ または \_\_\_\_\_

と表される。

★ 生産可能領域の導出

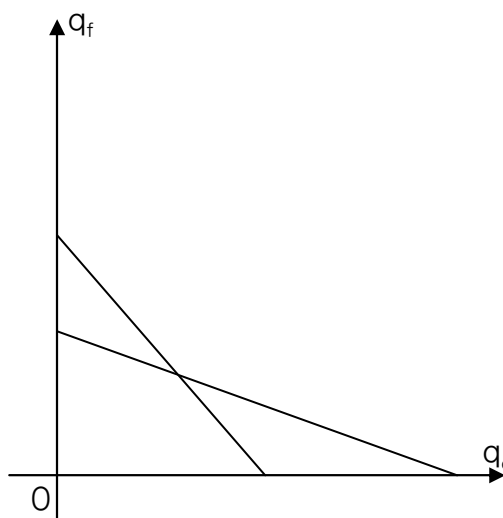
労働制約条件；

土地制約条件；



★ 資源が増加すると？

(例) Tが増加



つまり、ある経済はその経済で相対的に endowments の多い要素を集約的に用いる財の生産において相対的に効率的となる傾向がある。

<生産物価格と要素価格>

・・・商品の価格の変化が生産要素の価格の変化に与える効果を分析

●仮定

$P_c$ : 1ヤールの衣料の価格

$P_f$ : 1カロリーの食料の価格

$w$ : 1労働時間当たりの賃金率

$r$ : 1エーカーの土地の使用に対して支払われる地代

・完全競争